

(写真：UNHCR/Kaoru Nemoto)

亜熱帯地域に位置するダマクでも、内陸にあるため冬はかなり冷え込み、私も日本から持参した携帯用カイロに随分とお世話になりました。竹を編んだだけの小屋に住む難民キャンプの住民たちにとって夜の冷え込みは厳しく、財政難のために毛布さえも配布できなかったことが悔やまれます。

そんな中、キャンプに暮らすブータン難民たちがぬくもりを感じることでできる支援が日本から寄せられました。株式会社ユニクロの皆様がお客様の協力を得て全国のユニクロの店舗を通じて集めてくださった6万点以上にのぼるリサイクル衣料が今月ダマクに到着し、その贈呈式が23日、難民キャンプで行われました。日本からユニクロの社員



贈呈式の様子。皆さんで拍手！

の方々が出席され、お客様から寄せられたフリースなどを難民たちに手渡していただきました。

配布を受けた難民たちは色鮮やかなフリースに目を輝かせ、手触りを楽しんでいました。また同時に、難民家庭の訪問や職業訓練施設や Youth Friendly Center などの視察を通じて難民たちの抱える問題やニーズを直接聞いていただきました。寄付のニュースを聞いた難民女性の代表は、「衣類の配布はここ数年無かったので、他のものを我慢して買うしかありませんでした。子どもが多いので、大変ですから、本当に助かります」と喜んでいました。店頭でお客様から衣服を回収するという入り口と、受け取る側の状況やニーズという出口との両面に社員の方々が直接携わるといふ新しいモデルの社会貢献活動に、わずかながらも関ることができたことを嬉しく思います。吸い上げていただいたニーズをもとに、継続してご支援していただければと願っています。



ユニクロ・フリーペーパーをお楽しみに…

また、今回の難民キャンプへの衣料支援についてお客様にフィードバックするというこで、ユニクロ・フリーペーパーで記事掲載があるとのこと。フリーペーパー掲載用に、寄付された服を着た子どもの写真を撮影しました。子どもたちはカメラを向けられると、さっと表情を変え、いきいきと輝く力強い目でレンズを見つめていました。女の子はポーズをとるのも上手で、

彼女たちの新たな面を発見。また、皆さんにはダマク名物の「停電」も体験していただきましたし、支援活動に携わる様々な国籍の事務所スタッフとも交流していただきました。

ホームページでのご報告はこちら <http://www.fastretailing.com/jp/csr/environment/houkoku.html>

日本からの訪問団には作家の森絵都さんも参加され、難民の若者たちのかかえるフラストレーションや女性の地位の問題、さらには難民状況の解決をめぐる交渉の状況などについて熱心に話を聞いてくださりました。森さんが『風に舞いあがるビニールシート』を執筆されるにあたり UNHCR の活動や職員の仕事ぶりなどについてお話をいただき、



「ネパールにいらっしゃって難民支援の現場を是非ご覧になってください」と申し上げていたものの、いざ実現してみると、森さんに自分が現場で説明しているのが信じられない。とても不思議な気持ちができる「感無量」でした。今回の訪問をルポとしてお書きになるとのことで、この難民状況や支援活動が森さんの目と手を経るとどのような形にまとめられるのか、今から楽しみです。

難民の方々にあたたかさを届けることができました。

ただ残念なのは、訪問団のダマク滞在中の 22 日に、難民キャンプの一つで、難民たちが再三の注意にもかかわらずキャンプ周辺の森林に違法に立ち入って薪などを集めていたことに端を発して難民と地元住民との間で衝突があり、難民一人が死亡、負傷者が難民・地元住民の双方に発生したことです。これまでも地元住民とのいさかいで一触即発の状況はありましたが、ここまでの深刻な事件に一瞬足が竦みました。仲間の死に憤慨した難民らがキャンプ近くの幹線道路を封鎖。住民側も激昂して村の交番を焼き討ちし、負傷者を近くの病院に移送するための救急車もなかなかキャンプに近づけませんでした。

訪問団の方々が贈呈式終了後に予定していたカトマンズ行きの際に乗るにはこのキャンプ近くを通らざるを得なかったため、別の空港からのチャーター便を仕立ててもらってそちらに急遽変更。何とかカトマンズに辿り着いていただくことができました。キャンプを案内している最中も、警察や航空会社との調整にあたっているスタッフから急ぎの連絡が何度と無く入り、ご心配をお掛けしたかと思えます。別の意味では、難民の保護やスタッフの安全の確保にあたる現場の姿をお分かりいただけたかもしれません。

24 日午後には知事の仲裁で双方の代表による話し合いがもたれ、ようやく事態が收拾に向

かうかに見えましたが、25日には今回の衝突で警察に拘束されていた住民一人が死亡し、激昂した地元住民がバスを焼き討ちするなど、厳しい状況が続いています。両コミュニティの間の深い溝をどのように埋めていけばいいのか、これからが大変です。

さて、日経ウーマンネット上で連載されているジャーナリスト・吉田鈴香さんのエッセイで、当方の活動が紹介されています。<http://blog.5012.jp/nikkeiwoman/essay2/>  
機会がございましたら、どうぞご一読ください。

2007年2月26日

UNHCR ネパール・ダマク事務所長  
根本 かおる